

中海エコ活動レポート

KODOMOラムサール〈中海・宍道湖〉全国湿地交流



■全国・韓国の子ども達が中海・宍道湖に集結

平成20年2月9日～11日、松江市を主会場に、中海・宍道湖周辺で「KODOMOラムサール〈中海・宍道湖〉全国湿地交流」を開催しました。

この湿地交流は、湿地保全の未来を担うリーダーの育成と、本年10月に韓国で開催されるラムサール条約締約国会議に子どもたちからのメッセージを発信することを主な目的として、ラムサールセンター（NGO）と地元の自治体や関係団体などが協力して開催したものです。中海・宍道湖周辺から参加した50人の子どもたちを含め北は北海道、南は沖縄までの国内20ヶ所の湿地と、韓国の2湿地から合計100人の子どもたちが参加しました。

参加した子どもたちは、それぞれの湿地の紹介や、中海・宍道湖の体験学習などをしながら交流し、子ども会議を重ねて「KODOMOメッセージ」を作り上げました。

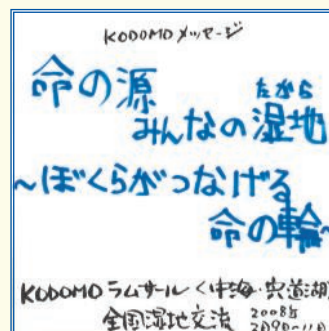


■命の源 たから みんなの湿地 ～ぼくらがつなげる命の輪～

このメッセージは、各湿地から集まった子どもたちが熱心に議論を重ね、思いを込めて作り上げたものです。参加した子どもたちは各湿地に帰り、地元の子どもたちや大人に発信するとともに各方面へ向けて発信します。

鳥取・島根両県知事も、作成の過程から熱心に見学し、参加した子どもたちへ、これからの期待を込めて激励しました。

この湿地交流に参加した子どもたちが各湿地のリーダーとなり、命の源であり宝である湿地を後世に残すための輪を広げ、国内はもとより世界の湿地の保全と賢明利用につなげてほしいと思います。



両県知事に渡された
KODOMOメッセージ

■おろち丸で湖面を清掃

中海～宍道湖の広い水域を管理している出雲河川事務所では、水面清掃船（写真）の「おろち丸」を使って浮遊ゴミや漂着ゴミを回収しています。



中海～宍道湖の浮遊ゴミや漂着ゴミは、一般の河川のように陸から回収できる場所はほとんどないため、船を使って水面や岸辺に近寄って回収します。

回収方法は、水面上のゴミは双胴船の間に入ったものを直接回収し、岸辺のゴミは船に取り付けられたクレーンを使って回収します。

■25mプール約2杯分のゴミを回収

「おろち丸」で回収するゴミの量は出水状況などによって変動しますが、梅雨前線による大きな洪水のあった平成18年度の年間回収量は、660m³と25mプール約2杯分に相当する量を回収しました。

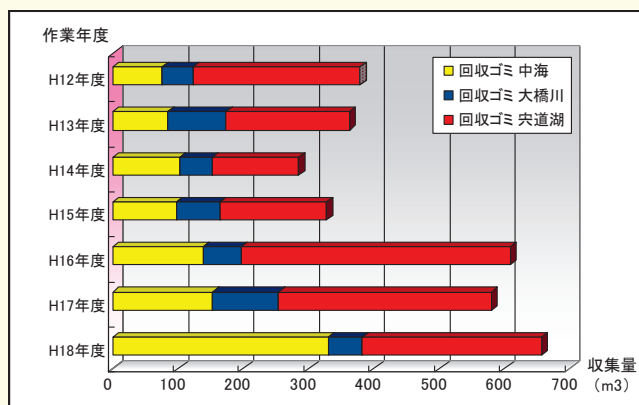


ゴミの種類では、ヨシや竹・草などが多く、中海～宍道湖に繋がっている河川の川の中や川の近くで刈られたものが多く含まれていると思われます。また、プラスチックやビニールなどの不燃ゴミも川や水路への不法投棄によるものが多いと考えられます。

■ゴミを減らそう

この中海～宍道湖の大量のゴミを回収するため、「おろち丸」は1年中ゴミの回収作業を行っています。またゴミの処分には焼却などのための処分費がかかっています。

このゴミの量を少しでも減らすために、皆さん一人一人が刈草などの放置や不法投棄などしないよう心がけ、川をきれいに使っていただきたいと思ひます。



住民活動を応援してます ～鳥取県・島根県の取り組み～

■環境立県協働促進事業補助金（鳥取県）

鳥取県では、県民との協働による環境先進県の実現を目指し、自然環境の保全、環境問題の普及啓発などの活動に必要な費用について、一部補助を行っています。

■対象となる事業

環境に関する講演会や研修会、ヨシの植栽など水質浄化活動などを行う次の事業が対象となります。

事業	内容	補助対象経費
環境イベント	講演会、研修会、地域の自然環境調査研究	講師旅費・謝金、会場・機器使用料、通信運搬費、印刷費公告宣伝費
アイドリングストップ運動	講演会、研修会	
ビオトープ保全・再生	ビオトープ作り	資材・消耗品、機械借上料専門技術者への資金、指導者謝金、用地借上料、先進事例地調査費
	自然環境の保全・再生	
水質浄化活動	ヨシの植栽 水生生物等生態系の回復	

■補助率

1/2 [県との共催の場合 2/3
アイドリングストップ運動 2/3]

■限度額

補助対象経費が3万円以上の活動に対して補助
ハード事業50万円 ソフト事業30万円
(アイドリングストップ運動は10万円)

■詳しくは下記まで御連絡ください。

鳥取県西部総合事務所生活環境局 0859(31)9350

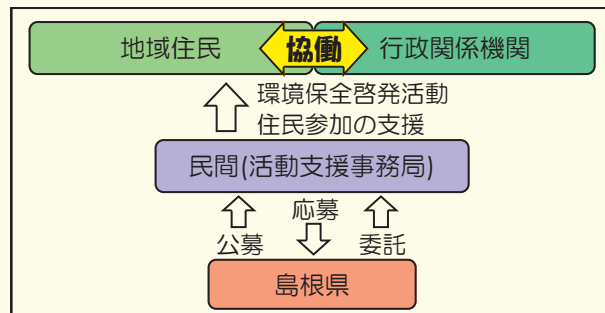
■みんなで育む宍道湖・中海環境保全事業（島根県）

島根県では、中海もしくは宍道湖流域で、湖を中心とした住民参加型の水環境保全活動が促進できる企画の提案を募集します。

■対象となる事業

次の2項目について行う事業が対象です。

- 1) 中海・宍道湖周辺での水環境保全に関する活動団体の育成、支援、コーディネート等の実施
- 2) 中海・宍道湖周辺での水環境保全に関して、住民参加を促進するための普及啓発事業の企画及び実施（中海については島根県域内での活動が対象です。）



■募集期間・応募資格・応募方法など、詳しくは下記ホームページの募集要項を御覧ください。

http://www.pref.shimane.lg.jp/environment/kankyo/kankyo/shinjiko_nakaumi/hagukumu_hozen.html

■問合先

島根県環境生活部環境政策課 0852(22)5562

地域の住民活動のご紹介

斐伊川くらぶ 八束花と緑の島づくり

■花と緑があふれ、そして活気ある島づくり

中海の“へそ”にあたる大根島。牡丹や雲州人参の島として有名です。

この島が将来、今以上に求心力や地域影響力がある拠点を目指し、一年を通し“花と緑”があふれる、活気ある中海圏域のオアシスとなるように、八束地域の子供達や住民の方々と力を合わせて島づくりを行っていきます。



■子ども達と植樹

昨秋、大根島北西岸海岸道路旧残水域において“菜の花”と“水仙”を八束小学校の児童の皆さんと植え、スタートしました。今春、八束中学校の生徒の皆さんと“桜”を植樹しました。



■多様な主体が協働連携

この取り組みは、ラムサール条約（賢明な利活用）の観点に立ち、5年を目途に、NPOが中心となって八束町のみなさん、国、県、市、地域団体の方々との協働連携によって進めていきます。

■連絡先：島根県松江市春日町-1
TEL (0852)20-0060

中海クリーンクラブ

■活動のきっかけ

中海クリーンクラブは、毎月1回第3日曜日にボランティアで中海湖岸の清掃活動を行っておられます。

この活動は、代表である内藤武夫さんが、中海の湖岸などにゴミが余りにも多いと感じ、ヨットクラブの子どもたちと一緒に1990年（平成2年）から始められたことがきっかけでした。

■自分たちが使った中海は、自分たちがきれいにしよう

この活動も一度は止められましたが、ゴミがたくさんある中海を見た子どもたちが、毎月1回清掃を行うと自ら言い出したことがきっかけとなり、2000年から再び始められました。



その後、この活動を見ておられた住民の方々も参加し今の「中海クリーンクラブ」が結成されました。

■中海への熱い情熱

そして、この内藤さんの地道な活動は、「中海アダプトプログラム」につながっています。

内藤さんは、子ども達にゴミ拾いに参加してもらうことで、ゴミを捨てない子どもに育ち、環境を考えるようになると話しておられます。内藤さんの中海への情熱は絶えることはなく、現在は湖底に沈んでいるゴミの清掃にも取り組んでおられます。

■問合せ先：内藤（TEL：090-4656-7893）

未来守りネットワーク

アマモ・コアマモ再生プロジェクト～よみがえれ中海～

■アマモの移植・増殖事業

未来守りネットワークは、特定非営利活動法人として、平成16年4月30日に設立しました。

我々 未来守りネットワークでは、平成17年からアマモの移植、増殖事業を行政はもとより大学漁協、地元企業、会員、会員の子どもの協力を得て「協働」で行い、毎年100㎡～150㎡程ですが増殖をしています。



■子ども達とともに

平成18年には「未来守りチャイルドクラブ」を立ち上げ、積極的にその活動及び発表の場を広げています。

最近では松江で開催された「KODOMOラムサール全国大会」にも参加し、全国の子供達とその交流を深めたばかりです。

今後は、我々の活動が子々孫々へと引き継がれて中海再生が実現できることを願い日々頑張っています。

■新たな取り組み

平成20年秋には、アマモ・コアマモ以外にアサリの放流等も予定しておりますので、広く皆様方のご参加お待ちしております。詳細は5月末頃の未来守りネットワークのHP (<http://npo-sakimori.sub.jp>) をご覧ください。

■問合せ先：鳥取県境港市元町124-1
TEL (0859)47-4330

中海再生プロジェクト

■中海アダプトプログラムの取り組み

地域の住民が決められた範囲を責任を持って中海の湖岸の美化に努める中海アダプトプログラムが開始され2年が経ちます。アダプトプログラムとは、1985年にアメリカで始まり、1998年頃、日本にも導入され現在約300箇所で開催されています。

中海アダプトプログラムは現在69団体と25名の個人参加の方に、米子市と安来市の一部をエリアとして、年3回程度の湖岸清掃をお願いしています。

■中海全域での活動を目指す

そしてこの春、エリアを安来市飯梨川付近から境港市まで拡張、ただいま団体および個人の参加募集を行っております。

担当範囲は4～5人が1時間程度の清掃ですむ短いものから人数に合わせて選択していただけます。お近くの方はぜひ御参加ください、お待ちしております。



また今後はエリアを拡張し東出雲町、松江市でも行ってまいります。

皆さんの手で湖岸のゴミを減らし「泳げる中海」を取り戻しませんか？

■問合せ先：米子市河崎610(事務局：中海テレビ放送)
TEL (0859)29-2854

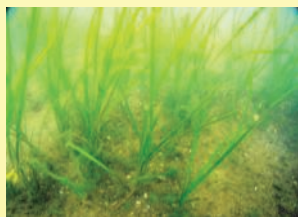
イベント・活動カレンダー

月	日	内容
4	21(月)~ 27(日)	宍道湖自然館ゴビウス開館7周年記念クイズラリー 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス(0853)63-7100
	26(土)~ 5/6(火)	春の米子水鳥公園クイズ大会 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	26(土)~ 5/6(火)	かわいい鳥の帽子を作ろう！ 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
5	3(土)~ 6(火)	ゴールデンウィークはゴビウスへ！巨大こいのぼりを作ろう！ 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス(0853)63-7100
	3(土)~ 6(火)	わくわくグリーンパークひろば 宍道湖グリーンパーク(0853)63-0787
	4(日)	水鳥公園一周ガイドウォーク 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	5(月)	どんどん昇る鳥のおもちを作ろう！ 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	10(土)	かわいい鳥のプローチを作ろう！ 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	11(日)	アダプトプログラム境港地区開始式 問合せ先 中海再生プロジェクト(中海TV)(0859)29-2854
	17(土)	第6回中海自然再生協議会
	18(日)	定例観察会「ふゆみずたんぼの観察と田植えを楽しもう」 宍道湖グリーンパーク(0853)63-0787
	25(日)	定例観察会「不思議がいっぱい！メダカを育ててみよう」 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス(0853)63-7100
	31(土)	中海夕暮れコンサート(湊山公園) 問合せ先 中海再生プロジェクト(中海TV)(0859)29-2854
6	上旬	中海・宍道湖一斉清掃 問合せ先 市役所・町役場 環境担当部局
	1(日)	わくわくグリーンパークひろば「オリジナル紋づくり」 宍道湖グリーンパーク(0853)63-0787
	2(月)	わくわくグリーンパークひろば「ゆらゆらゆれ〜る鳥のモビールづくり」 宍道湖グリーンパーク(0853)63-0787
	4(水)~ 30(月)	企画展「カエル」展 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス(0853)63-7100
	22(日)	定例観察会「カエルの観察をしよう」 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス(0853)63-7100
	28(土)	中海夕暮れコンサート(湊山公園) 問合せ先 中海再生プロジェクト(中海TV)(0859)29-2854

● アマモってなに？

海の中に陸上の稲と同じ仲間て花を咲かせる海草が存在することを知っていますか？(海草とは種子植物で、海藻は孢子によって繁殖する藻類です。)

海草の代表的なものが「アマモ・コアマモ」で、アマモは正式名称として「リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ」という日本で一番長い名前を持つ生物であり昔から日本の沿岸には多くの藻場がありました。まとめて生えている所をアマモ場(藻場)と呼びます。元々は陸上にいた植物が、約1万年前に海中へと帰化したとされています。アマモ場は、魚介類達の産卵場でもあり、餌場や隠れ場として外敵から身を隠すのに適した場です。さらに、アマモは陸上の植物と同様に光合成を行い、海中に酸素を供給します。その上、水質を浄化する機能まで持ち合せているのです。次回は、中海のアマモについてご紹介します。(境港T.O)



編集・発行者

鳥取県西部総合事務所
生活環境局環境・循環推進課
鳥取県米子市靴町一丁目160
電話 (0859)31-9350
E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.jp
Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

鳥根県環境生活部環境政策課
鳥根県松江市殿町1番地
電話 (0852)22-5562
E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp
Homepage: <http://www.pref.shimane.lg.jp/kankyo/>

コラム 古代の中海(2)

前回は古代の中海がどのような食材を恵んでくれたのかについて述べましたが、では、人々はその海の幸をどのようにして獲り、交易していたのでしょうか。早速、例の『出雲国風土記』をひも解いてみると「嶋根郡」(現在の松江市の大橋川から北の部分で佐陀川から東側の地域。大根島及び江島を含む)の条に次のような記載があります。

「朝酌(松江市の大橋川沿いに現在もある地区の名前。現在は中海の岸から西へ3kmほど入ったところに位置するが、当時はまだ瀕が形成されておらず入海に面していた。)の海峡には・・・東西に「ヒビ」という魚を獲る仕掛けが据え付けられている。春や秋には、大小さまざまな魚がそのウエの近くに集まってきてピチピチ跳ね、水面がまるで大風が吹いたときのように波立つ。なかにはヒビを壊すほどの大物もいれば、勢いあまって陸の上に跳びだしてしまい、干し魚のようになって鳥に食べられてしまうものもいる。大小の魚の水揚げで浜は人でごった返し、漁民の家は繁盛し、魚を売り買いする人が各地から集ってくるので、いつのまにか店が軒を連ねるまでになっている。ここから東の大井浜に至るまでの間の南北の二つの浜ではシラウオが獲れ、水は深くなっている。(加藤義成氏のテキストからの意識)」

いかがですか、まるで物売りの掛け声がそのまま聞こえてきそうなほど浜や市場の様子がいきいきと描かれ、当時の活気に満ちた人々の暮らしぶりが目に浮かぶようです。中海の幸の賜物です。

ここで登場するこのヒビがどのようなものであったのかについては近年研究が進んでいます。それによれば、ヒビとは木や竹を束ねたもので、これを何本も水中に差し込んで魚が寄り付いてひっかかるのを待ちました。ひっかかった魚は木を割り抜いて作った船を漕ぎ出して獲り、その際には「たも網」も使っていたようです。単に掬ったり銚で突いたりするだけでなく、仕掛けでおびき寄せる頭脳的な漁もしていたわけで、古代の人々の知恵に感心させられます。

なお、県立古代出雲歴史博物館では、このヒビを使って漁をしている様子や古代の中海沿岸の地形、前回紹介した浜辺の宴の賑わいなどをジオラマを見ることが出来ます。また、朝酌の市の様子等が等身大のセットで再現されています。まだご覧になっていない方はぜひ一度訪ねてみてください。

(島根A.T.)



写真提供 鳥根県立古代出雲歴史博物館

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページをご確認してください。なお、投稿にあたっては出来る限り電子データで投稿をお願いします。